

令和 6 年度

第 2 回赤磐市地球温暖化対策実行計画推進協議会

次 第

日 時 令和 6 年 11 月 18 日（月）
午前 9 時 30 分～11 時 30 分
場 所 赤磐市役所 3 階 第 1 会議室

1 開会

2 議 題

- (1) 赤磐市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）素案の説明
- (2) アンケート及びヒアリング結果について
 - ・市民・事業者・若年世代に対するアンケートの実施報告
 - ・赤磐市内事業者に対するヒアリングの実施報告
 - ・地球温暖化対策実行計画（区域施策編）に反映したい内容
- (3) ゼロカーボンに関する意見交換
- (4) その他

4 閉会

令和6年度委員名簿

〔任期〕 令和6年9月12日～令和8年9月11日

役員区分	氏名	所属	備 考
会長	木村 幸敬	岡山大学	
副会長	光成 良充	赤磐市議会	
	佐々木 武重	赤磐市自治連合会	
	柴奥 貴志	晴れの国岡山農業協同組合	
	平井 修二	美作東備森林組合	
	原地 慶充	赤磐商工会	
	武村 和彦	株式会社トマト銀行	
	高橋 宏彰	みのる産業株式会社	
	古澤 慶一	大和リース株式会社	
	岡本 尚子	岡山県	

（参考）事務局名簿

所 属	役 職	氏 名	備 考
市民生活部	部長	矢部 勉	
〃 環境課	課長	安藤 伸一	
〃 〃	班長	佐々木 信行	
〃 〃	主査	題府 勝介	
〃 〃	主事	木原 可南子	
総合政策部政策推進課	課長	山崎 和枝	

市民・事業者・若年世代に対するアンケートの実施報告

令和 6 年 11 月 15 日

	一般市民	事業者	若者（小学生、中学生）
実施概要	市内に居住する 15 歳以上（令和 6 年 4 月 1 日現在）の市民の中から 1,300 人を無作為抽出	市内に所在する 533 の事業所	赤磐市立小学校（11 校）の 6 年生及び中学校（5 校）の 2 年生
回収状況	回収数：321 件 回収率：24.7%	回収数：145 件 回収率：27.2%	回収数：541 件 回収率：65.1%（541 名/831 名）
計画素案へ反映するポイント	● 再エネ設備導入にあたっては、災害時等の非常時におけるエネルギー供給、捨てていたり未利用で使われていない今ある資源活用と循環、生活の利便性向上といった効果につながる取組みやそれらに関連する計画等と連携した施策としていくことが必要。 ● 学校・幼稚園・保育園、及び市民にとって日頃の生活に密接で目に見える場所での導入が特に期待されている。 ● <u>市民それぞれのライフステージに合ったタイムリーで取組みやすい施策により効率的に再エネを導入しやすい機会を創出する必要があります。</u> ● <u>信頼性が高くわかりやすい情報を発信</u>し、再エネ導入に向けた関心と検討意欲を高められるような施策が必要です。また、情報発信にあたっては、情報を届けたい世代に合わせた媒体を活用することが有効と考えられます。	● 事業所の規模に係らず地球温暖化によるリスク対応や脱炭素化の取組みが必要という認識は浸透しており、企業経営に役立つ形での脱炭素対策に取組めるような環境づくりが求められる。 ● 再エネの導入に向けた全体的な機運の醸成を図るために、事業所の規模によって異なるニーズを理解し、取り組みやすく実効性のある施策の展開を図る必要がある。 ● 規模の小さな事業所に対しては事例紹介や見学も含めた情報提供及びコスト削減にもつながるような省エネの取組みの促進が求められていると考えられる。 ● 規模の大きい事業所に対しては、<u>実際の導入に向けた相談や連携ができる場づくり</u>が求められていると考えられる。	● 地球温暖化とそのリスクについては約 4 分の 1 の若者が知らないという結果を踏まえ、これから将来を担う世代である児童・生徒たちが脱炭素の重要性及び再エネに対して理解を深めることができるよう、<u>教育機関との連携等</u>により中長期的な視点での人材育成の取組みも必要。 ● 再エネ導入の方向性として、防災・減災、災害時レジリエンスの向上、また、住環境や生活利便性の向上に資するかたちが望まれる。 ● 学校・保育園・幼稚園といった教育機関及び個人宅など、児童・生徒にとって<u>目に見える身近な施設への導入</u>が期待されており、上記の教育的な観点も踏まえた再エネ導入施設の優先順位を検討する必要がある。

市民アンケート実施結果について

1. アンケート調査概要

(1) 調査対象

市内に居住する15歳以上（令和6年4月1日現在）の市民の中から、1,300人を無作為抽出

(2) 調査方法

配布：郵送による

回収：郵送またはウェブ回答フォームへの入力

(3) 実施期間

令和6年9月19日発送～10月13日

(4) 回収状況

回収数：321件

回収率：24.7%

2. アンケート結果の概要

(1) 設問毎の回答及びポイント

設問		回答数 (件)	回答率 (%)	ポイント
【Q1】 属性	性別	319	99.4	—
	年齢	316	98.4	
	家族構成	310	96.6	
【Q2】 地球温暖化のリスクを知っているか		318	99.1	9割以上が知っているが、年齢別では年代が若いほど知らないとの回答が多くなる傾向
【Q3】 再生可能エネルギーを使うことが赤磐市にとってどんな効果につながると思うか		316	98.4	災害時等の非常時に使えるエネルギーがある、使われていない資源を有効活用し資源が循環するという点が重視されている。若年世代では農地や森林の保全と活用、産業活性化、生活の利便性向上という視点もやや重視されている。
【Q4】 赤磐市がどんなまちだったら、将来も市内に住み続けたいか		317	98.8	生活の利便性、災害が少ない・災害があっても困らないまちが望まれている。若年世代では生活していくための仕事がある、子どもたちが楽しく豊かに過ごせる、という視点もやや重視されている。
【Q5】 市内で再生可能エネルギーを導入してほしい場所		297	92.5	学校・保育園・幼稚園が最も多い。また、各年代の生活スタイルに身近な施設への導入が望まれていることが伺える。

【Q6】 今後、自身の生活の中で地球温暖化防止のために取組んでみたいこと	321 ※	100.0	省エネ型の家電や設備を使うことが取組みやすく感じられている。ZEH は 40～50 代、再エネ導入、断熱改修は 50 代で高くライフステージに合わせた情報提供や取組みやすい施策内容の検討が必要。
【Q7】 自宅で使っている、または、今後使ってみたい再エネ等設備	321 ※	100.0	ハイブリッド自動車、太陽光発電は既に導入している方が 20%前後となっている。これらに加え PHV や EV の取組み意欲が高い。
【Q8】 太陽光発電を導入していない理由	231	72.0	設備に対する不安や情報の不足が障壁となっている。
【Q9】 電気自動車（EV）を導入していない理由	275	85.7	インフラ（充電場所や時間）や車両の性能（航続距離）に対する不安が障壁となっている。
【Q10】 再エネの利用にあたって役立つと思う支援、サービス、制度	287	89.4	助成制度や初期費用を負担してくれるサービスといった費用負担の軽減策が特に重要。また情報提供の際は世代にあった媒体での提供が望まれる。

※無回答分も含めて比率を算出した

3. アンケートの結果

【Q1】あなたご自身のことについてお伺いします。（性別、年齢、家族構成）（n=321）

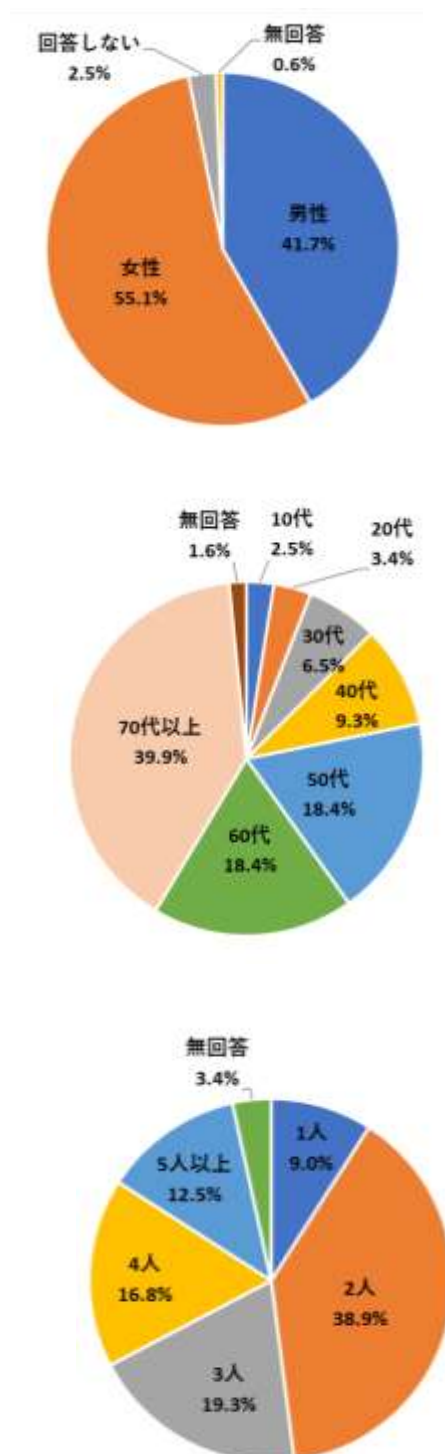


図 1 回答者の属性（上から性別、年齢、家族構成）

【Q2】異常高温（気温）、海水温の上昇、高潮、豪雨災害など地球温暖化が原因と考えられる想定外の災害が増えています。あなたはこうした地球温暖化のリスクを知っていますか。（n=318）

「知っている」との回答が91.8%であり、地球温暖化による様々なリスクについては認知がされている状況です。

年代別に集計すると、年齢が下がるほど「知らない」との回答が多くなる傾向が見られます。

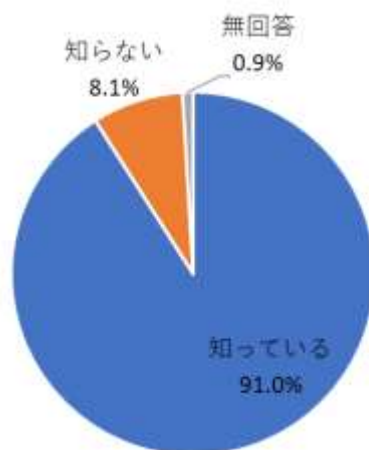


図 2 地球温暖化のリスクを知っているか

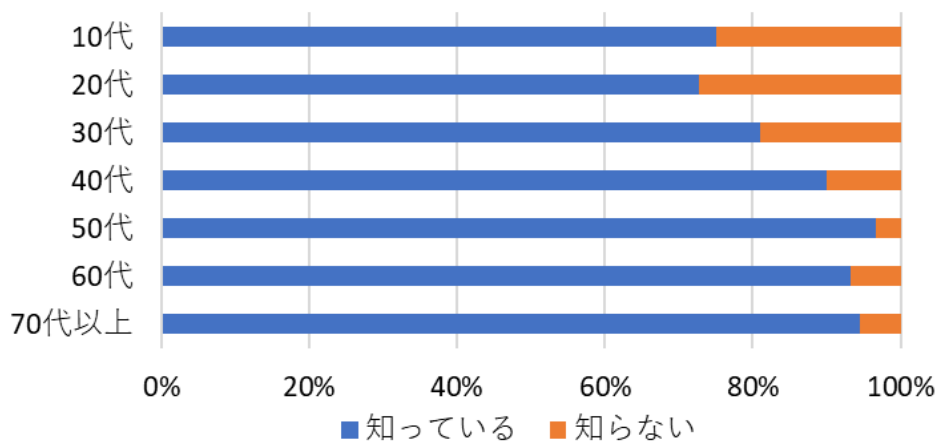


図 3 地球温暖化のリスクを知っているか（年代別）

【Q3】赤磐市にとって、再生可能エネルギーを使うことが、地球温暖化防止だけでなく、どんな効果につながると良いと思いますか。（特に重要だと思うもの3つに○）（n=316）

「2. 災害などの非常時にも使えるエネルギーがある」が最も多く、次いで「8. 捨てていたり使われていないままの資源も、無駄なく有効に使い切り資源が循環する」、「1. 災害を予防したり減らしたりする」の順となっており、特に災害時に対する意識や今ある資源を有効活用することを重視していることが伺えます。

年齢別に見てもほとんどの年代で「2. 災害などの非常時にも使えるエネルギーがある」、「8. 捨てていたり使われていないままの資源も、無駄なく有効に使い切り資源が循環する」及び「1. 災害を予防したり減らしたりする」が多い結果となっています。その他、10代～30代の若年世代では「7. 農地や森林の保全と活用が進む」が、30代以上の働く世代では「3. 市内に新しい産業が生まれたり産業の活性化につながったりする」、20代では「4. 市内での生活がもっと便利になる」が比較的高い結果となりました。



図 4 再エネを使うことが赤磐市にとってどんな効果につながると良いと思うか

表 1 再エネを使うことが赤磐市にとってどんな効果につながると良いと思うか（年代別）

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
1. 災害を予防したり減らしたりする	21%	9%	9%	14%	16%	14%	15%
2. 災害などの非常時にも使えるエネルギーがある	21%	16%	25%	23%	21%	22%	21%
3. 市内に新しい産業が生まれたり産業の活性化につながったりする	8%	6%	16%	13%	13%	13%	12%
4. 市内での生活がもっと便利になる（買い物や交通など）	4%	13%	4%	11%	6%	6%	7%
5. 家や建物の中が暖かく涼しい快適な暮らしができる	8%	9%	2%	10%	6%	10%	8%
6. 子育て環境の向上や子どもたちの教育につながる	4%	9%	5%	9%	8%	7%	6%
7. 農地や森林の保全と活用が進む	21%	16%	16%	9%	14%	10%	12%
8. 捨てていたり使われていないままの資源も無駄なく有効に使い切り資源が循環する	13%	22%	23%	12%	15%	18%	19%

【Q4】赤磐市がどんなまちだったら、将来も市内に住み続けたいと思いますか。あなたにとって、特に重要だと思うもの3つに○をつけてください。(n=317)

最も多かった回答は「5. 生活が便利」であり、次いで「1. 災害が少ない、災害があっても困らない」が多い結果となりました。

また、年齢別に見ても、上記の2項目はいずれの年代においても高い結果となりました。また、10代では「3. 生活していくための仕事がある」がそれらと同様に高い結果となりました。また、20～40代の子育て期にある世代では「7. 子どもたちが楽しく豊かに過ごせる」が比較的高い結果となりました。



図 5 赤磐市がどんなまちだったら、将来も市内に住み続けたいか

表 2 赤磐市がどんなまちだったら、将来も市内に住み続けたいか（年代別）

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
1. 災害が少ない、災害があっても困らない	21%	15%	20%	24%	21%	21%	23%
2. 自然環境が良い、自然が感じられる生活環境	17%	3%	8%	14%	7%	15%	16%
3. 生活していくための仕事がある	21%	6%	14%	10%	15%	8%	9%
4. 起業するなど自分がやりたいことにチャレンジできる機会がある	0%	0%	3%	3%	2%	1%	1%
5. 生活が便利（買い物や交通など）	21%	26%	20%	22%	24%	27%	20%
6. 快適に暮らせる（住宅環境など）	8%	21%	9%	9%	12%	6%	9%
7. 子どもたちが楽しく豊かに過ごせる	8%	18%	14%	13%	9%	8%	8%
8. 若い世代が多い、まちに賑わいや活気がある	4%	12%	11%	5%	10%	13%	13%

【Q5】市のどんなところに再生可能エネルギーを導入してほしいですか。導入してほしいと思うものに○をつけてください(いくつでも可)。また、その理由があれば()に記入してください。(n=297)

「3. 学校・保育園・幼稚園」が最も多く、次いで「8. 医療施設」「9. 福祉施設」「12. 市役所・支所」「1. 個人の家」「13. バスなどの公共交通機関」の順に多い結果となりました。

年代別に見ると、「3. 学校・保育園・幼稚園」はいずれの年代においても最も高い結果となっています。また、各年代ごとの生活スタイルによって利用頻度の高い施設が選択されており、どの世代においても自らの生活の中で再エネが活かされる姿が望まれていることが伺えます。



図 6 市内で再エネを導入してほしい場所

表 3 市内で再エネを導入してほしい場所（年代別）

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
1. 個人の家	15%	6%	7%	9%	11%	9%	8%
2. 個人の自動車	0%	0%	2%	5%	4%	5%	3%
3. 学校・保育園・幼稚園	19%	23%	12%	13%	15%	15%	12%
4. 公民館	11%	10%	7%	7%	8%	6%	8%
5. 図書館	7%	3%	9%	9%	8%	4%	8%
6. 商業施設・飲食店	4%	6%	9%	8%	8%	5%	4%
7. 工場	4%	3%	6%	5%	6%	4%	6%
8. 医療施設	15%	13%	9%	9%	8%	11%	11%
9. 福祉施設（高齢者の施設など）	4%	6%	8%	5%	9%	11%	12%
10. 観光・レジャー・スポーツ施設	4%	16%	8%	6%	6%	5%	5%
11. 農業や林業用の設備・機械	0%	0%	5%	4%	5%	2%	5%
12. 市役所・支所	7%	10%	7%	9%	7%	13%	9%
13. バスなどの公共交通機関	11%	3%	9%	9%	7%	9%	10%

【Q6】今後、ご自身の生活の中で地球温暖化防止のために取組んでみたいことはありますか。(n=321)

「すでに取り組んでいる」及び「取り組もうとしている」が最も多いのは、「①省エネ型の家電や設備を使う」となりました。

いっぽう、「④ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス（ZEH）に住む」は取り組もうとしている方は少なく「わからない」と答えた方も他の選択肢より多く、情報が不足していることが伺えます。

年代別に見ると、全体としては取り組むようとしている方が少ない「④ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス（ZEH）に住む」は40～50代では「できれば取り組みたい」が比較的高い結果となっています。また、50代では、「再生可能エネルギーを導入する」及び「家の断熱改修をする」が高い値となっています。年代ごとに生活スタイルやライフステージによってニーズや取組みやすさが異なるため、それらを意識した情報提供のあり方や施策内容とする必要があります。

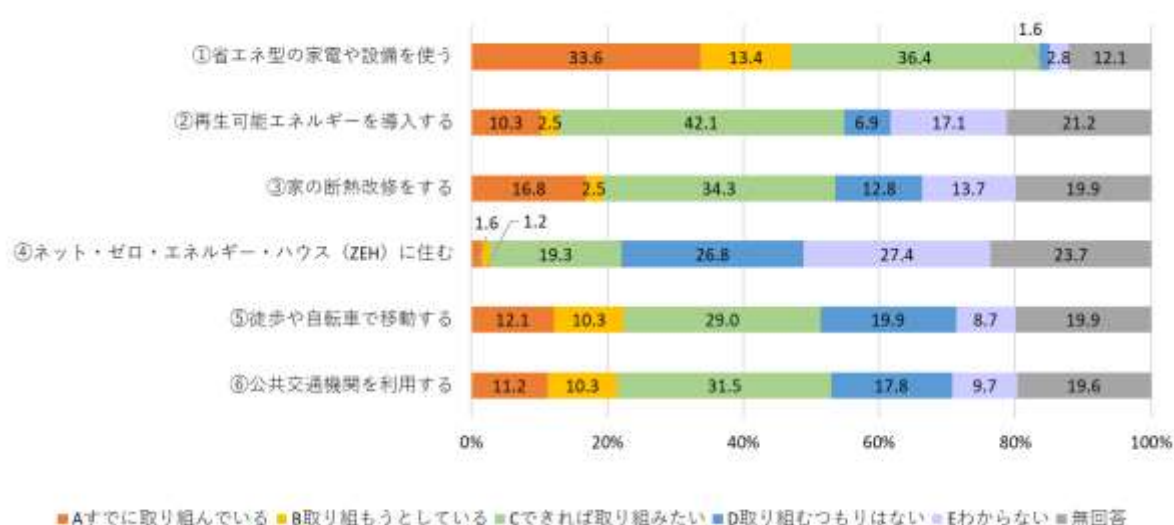


図 7 今後、自身の生活の中で地球温暖化防止のために取組んでみたいこと

表 4 今後、自身の生活の中で地球温暖化防止のために取組んでみたいこと（年代別）

〔①省エネ型の家電や設備を使う〕

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70以上
Aすでに取組んでいる	29%	36%	38%	50%	30%	43%	38%
B取組もうとしている	0%	18%	10%	17%	21%	16%	13%
Cできれば取組みたい	57%	36%	48%	33%	46%	36%	43%
D取組むつもりはない	0%	0%	0%	0%	4%	2%	2%
Eわからない	14%	9%	5%	0%	0%	4%	4%

〔②再生可能エネルギーを導入する〕

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70以上
Aすでに取組んでいる	29%	9%	14%	32%	12%	10%	8%
B取組もうとしている	0%	36%	5%	4%	2%	0%	1%
Cできれば取組みたい	57%	36%	48%	43%	63%	64%	48%
D取組むつもりはない	0%	0%	14%	11%	6%	6%	12%
Eわからない	14%	18%	19%	11%	17%	20%	31%

〔③家の断熱改修をする〕

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70以上
Aすでに取組んでいる	0%	18%	10%	34%	12%	24%	25%
B取組もうとしている	0%	9%	5%	3%	0%	2%	5%
Cできれば取組みたい	43%	45%	52%	41%	60%	43%	31%
D取組むつもりはない	29%	9%	19%	17%	12%	12%	19%
Eわからない	29%	18%	14%	3%	17%	18%	20%

〔④ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス（ZEH※）に住む〕

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70以上
Aすでに取組んでいる	0%	9%	10%	0%	0%	0%	3%
B取組もうとしている	0%	9%	0%	3%	2%	2%	0%
Cできれば取組みたい	29%	27%	29%	41%	36%	22%	13%
D取組むつもりはない	29%	9%	33%	28%	28%	39%	45%
Eわからない	43%	45%	29%	28%	34%	37%	40%

〔⑤徒歩や自転車で移動する〕

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70以上
Aすでに取組んでいる	63%	0%	14%	3%	8%	17%	20%
B取組もうとしている	13%	18%	10%	7%	10%	10%	19%
Cできれば取組みたい	0%	56%	29%	47%	41%	37%	33%
D取組むつもりはない	13%	44%	33%	27%	25%	23%	23%
Eわからない	13%	0%	14%	17%	16%	13%	5%

〔⑥公共交通機関を利用する〕

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70以上
Aすでに取組んでいる	57%	18%	14%	7%	12%	10%	16%
B取組もうとしている	0%	9%	5%	7%	13%	10%	20%
Cできれば取組みたい	14%	36%	33%	33%	31%	39%	50%
D取組むつもりはない	14%	36%	29%	33%	33%	24%	8%
Eわからない	14%	0%	19%	20%	12%	18%	6%

【Q7】あなたは、下記の設備について、すでにご自宅で使っているもの、または、今後使ってみたい（導入したい）ものはありますか。（n=321）

既に利用している設備としてはハイブリッド自動車が 21.8%で最も多く、次いで太陽光発電も 19.9%となっています。これらは今後できれば取り組みたいという意向のある方も比較的多い結果となっています。また、プラグインハイブリッド自動車や電気自動車及びそれらのための充電設備は「今後使ってみたい/取り組もうとしている」「興味がある/できれば取り組みたい」と回答した方が多く、今後の普及が期待されます。

年代別に見ると、30 代及び 40 代では既に太陽光発電を利用しているとの回答が 30%を超えており、今後できれば取り組みたいとの回答も 30～50 代で 30%を超えています。またハイブリッド自動車は全ての年代において浸透してきているとともに、プラグインハイブリッド車や電気自動車は今後の取り組み意欲が全年代において比較的高く、中でも 40～50 代は「今後使ってみたい/取り組もうとしている」が 20%を超えています。

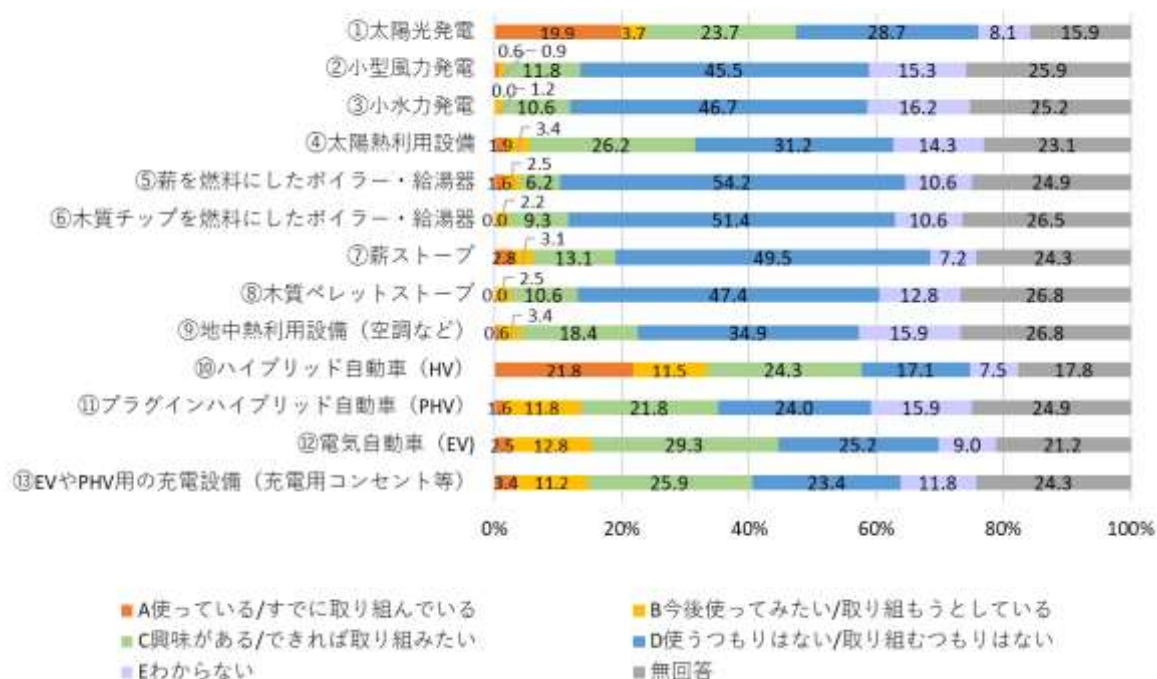


図 8 自宅で使っている、または、今後使ってみたい再エネ等設備

表 5 自宅で使っている、または、今後使ってみたい再エネ等設備（年代別）

〔①太陽光発電〕

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70以上
A使っている/すでに取り組んでいる	14%	27%	33%	37%	23%	18%	20%
B今後使ってみたい/取り組もうとしている	0%	9%	5%	7%	5%	6%	2%
C興味がある/できれば取り組みたい	29%	27%	38%	33%	36%	24%	22%
D使うつもりはない/取り組むつもりはない	43%	36%	5%	23%	21%	45%	45%
Eわからない	14%	0%	19%	0%	14%	6%	11%

〔②小型風力発電〕

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70以上
A使っている/すでに取り組んでいる	0%	0%	0%	0%	2%	0%	1%
B今後使ってみたい/取り組もうとしている	0%	0%	0%	0%	2%	2%	1%
C興味がある/できれば取り組みたい	0%	30%	35%	29%	12%	11%	11%
D使うつもりはない/取り組むつもりはない	67%	60%	45%	46%	53%	71%	69%
Eわからない	33%	10%	20%	25%	31%	16%	18%

〔③小水力発電〕

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70以上
A使っている/すでに取り組んでいる	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
B今後使ってみたい/取り組もうとしている	0%	0%	0%	0%	2%	5%	0%
C興味がある/できれば取り組みたい	17%	30%	20%	18%	16%	11%	10%
D使うつもりはない/取り組むつもりはない	50%	60%	50%	57%	52%	70%	70%
Eわからない	33%	10%	30%	25%	30%	14%	19%

〔④太陽熱利用設備〕

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70以上
A使っている/すでに取り組んでいる	0%	10%	0%	0%	4%	0%	4%
B今後使ってみたい/取り組もうとしている	0%	0%	5%	7%	2%	4%	4%
C興味がある/できれば取り組みたい	33%	40%	45%	39%	40%	32%	29%
D使うつもりはない/取り組むつもりはない	33%	40%	20%	36%	31%	53%	45%
Eわからない	33%	10%	30%	18%	23%	11%	18%

〔⑤薪を燃料にしたボイラー・給湯器〕

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70以上
A使っている/すでに取り組んでいる	0%	0%	0%	4%	0%	0%	5%
B今後使ってみたい/取り組もうとしている	0%	0%	5%	0%	6%	4%	3%
C興味がある/できれば取り組みたい	0%	0%	15%	14%	8%	9%	6%
D使うつもりはない/取り組むつもりはない	83%	80%	65%	54%	62%	82%	78%
Eわからない	17%	20%	15%	29%	24%	4%	8%

〔⑥木質チップを燃料にしたボイラー・給湯器〕

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70以上
A使っている/すでに取り組んでいる	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
B今後使ってみたい/取り組もうとしている	0%	0%	5%	4%	6%	4%	0%
C興味がある/できれば取り組みたい	0%	0%	15%	25%	14%	13%	10%
D使うつもりはない/取り組むつもりはない	83%	80%	65%	61%	55%	76%	77%
Eわからない	17%	20%	15%	11%	24%	7%	14%

〔⑦薪ストーブ〕

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70以上
A使っている/すでに取り組んでいる	0%	0%	10%	7%	4%	0%	4%
B今後使ってみたい/取り組もうとしている	0%	0%	10%	0%	8%	2%	4%
C興味がある/できれば取り組みたい	17%	0%	20%	25%	16%	22%	15%
D使うつもりはない/取り組むつもりはない	67%	80%	50%	57%	57%	74%	69%
Eわからない	17%	20%	10%	11%	16%	2%	8%

【⑧木質ペレットストーブ】

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70以上
A使っている/すでに取り組んでいる	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
B今後使ってみたい/取り組もうとしている	0%	0%	5%	0%	8%	4%	1%
C興味がある/できれば取り組みたい	17%	0%	21%	21%	14%	20%	10%
D使うつもりはない/取り組むつもりはない	67%	70%	58%	57%	54%	62%	75%
Eわからない	17%	30%	16%	21%	24%	13%	14%

【⑨地中熱利用設備（空調など）】

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70以上
A使っている/すでに取り組んでいる	0%	0%	0%	4%	0%	0%	1%
B今後使ってみたい/取り組もうとしている	17%	0%	5%	4%	8%	2%	4%
C興味がある/できれば取り組みたい	0%	20%	32%	25%	33%	25%	21%
D使うつもりはない/取り組むつもりはない	67%	70%	47%	43%	37%	52%	48%
Eわからない	17%	10%	16%	25%	22%	20%	25%

【⑩ハイブリッド自動車（HV）】

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70以上
A使っている/すでに取り組んでいる	17%	40%	25%	21%	18%	36%	27%
B今後使ってみたい/取り組もうとしている	17%	10%	15%	10%	20%	21%	9%
C興味がある/できれば取り組みたい	17%	20%	40%	59%	31%	23%	25%
D使うつもりはない/取り組むつもりはない	33%	30%	10%	10%	16%	11%	30%
Eわからない	17%	0%	10%	0%	16%	9%	9%

【⑪プラグインハイブリッド自動車（PHV）】

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70以上
A使っている/すでに取り組んでいる	0%	0%	0%	4%	0%	4%	3%
B今後使ってみたい/取り組もうとしている	17%	10%	15%	7%	24%	22%	12%
C興味がある/できれば取り組みたい	0%	20%	40%	52%	31%	30%	21%
D使うつもりはない/取り組むつもりはない	50%	40%	20%	19%	18%	30%	44%
Eわからない	33%	30%	25%	19%	27%	13%	21%

【⑫電気自動車（EV）】

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70以上
A使っている/すでに取り組んでいる	0%	9%	5%	0%	5%	2%	2%
B今後使ってみたい/取り組もうとしている	17%	9%	10%	7%	24%	26%	12%
C興味がある/できれば取り組みたい	0%	36%	40%	48%	35%	36%	38%
D使うつもりはない/取り組むつもりはない	50%	45%	35%	31%	22%	26%	37%
Eわからない	33%	0%	10%	14%	15%	11%	10%

【⑬EVやPHV用の充電設備（充電用コンセント等）】

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70以上
A使っている/すでに取り組んでいる/使って	0%	9%	10%	7%	8%	2%	1%
B今後使ってみたい/取り組もうとしている/	17%	9%	5%	7%	21%	24%	12%
C興味がある/できれば取り組みたい/興味が	17%	18%	35%	50%	33%	39%	30%
D使うつもりはない/取り組むつもりはない	50%	45%	35%	29%	21%	22%	37%
Eわからない	17%	18%	15%	7%	17%	13%	20%

【Q8】（現在、太陽光発電をご自宅に導入されていない方のみご回答ください。）

導入していない理由は何ですか。当てはまるもの全てに○をつけてください。（n=231）

「8. 修理やメンテナンスの体制や費用に不安があるから」が最も多く、次いで「6. 費用はわからないがなんとなく高額そうだから」「7. 設備の性能や品質に不安があるから」の順となっており、コストよりも設備に対する不安や情報の不足といった点が障壁となっていることが伺えます。



図 9 太陽光発電を導入していない理由

【Q9】（現在、電気自動車（EV）※をご自宅に導入されていない方のみご回答ください。）

導入していない理由は何ですか。当てはまるもの全てに○をつけてください。（n=275）

※電気自動車（EV）：自動車に搭載したバッテリーに充電された電気のみで走行する自動車のこと。

「8. 出先での充電場所や充電時間に不安があるから」との回答が最も多く、次いで「9. 航続距離に不安を感じるから」「7. 修理やメンテナンスの体制や費用に不安があるから」の順となっています。太陽光発電と同様に、設備やインフラに対する不安が障壁となっていることが伺えます。



図 10 電気自動車（EV）を導入していない理由

【Q10】ご自宅で再エネの利用をするとしたらどんな支援、サービス、制度があると役立ちますか。
(n=287)

最も多い回答は「7.助成制度（導入費用の支援）」、次いで「9.初期費用を負担してくれるサービス」となっており、実際の導入を検討するにあたっては費用負担の軽減が特に重要となることが伺えます。

年代別においても全体と同様の結果となりました。また、若い世代では特にインターネットでの情報提供が、高齢の世代になるほど広報や冊子等での情報提供が望まれており、情報を届けたい世代に合わせて発信を行うことが重要と考えられます。



図 11 再エネの利用にあたって役立つと思う支援、サービス、制度

表 6 再エネの利用にあたって役立つと思う支援、サービス、制度（年代別）

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
1. インターネットでの情報提供	29%	17%	12%	15%	13%	9%	5%
2. 広報や冊子などでの情報提供	0%	9%	5%	10%	10%	13%	15%
3. 実際に導入している事例	6%	4%	11%	9%	8%	10%	13%
4. 相談会や相談窓口	0%	9%	5%	4%	5%	7%	4%
5. 専門家によるアドバイス、診断、の紹介や見学会	6%	0%	8%	12%	7%	7%	7%
6. 市民や事業者がお互いに相談したり提案しあえる場、勉強会	6%	0%	6%	3%	2%	2%	4%
7. 助成制度（導入費用の支援）	29%	22%	20%	22%	28%	26%	28%
8. 融資時における優遇措置	6%	17%	12%	7%	9%	7%	6%
9. 初期費用を負担してくれるサービス	18%	22%	23%	19%	18%	20%	18%

事業者アンケート実施結果について

1. アンケート調査概要

(1) 調査対象

市内の 533 の事業所（発送数 550 通のうち宛所不明による返送分を除く）

（商工会/商工会議所運営サイトをベースに、経産省法人データベース gbizinfo 及びその他市企業立地ガイドにて補完）

(2) 調査方法

配布：郵送による

回収：郵送、FAX またはウェブ回答フォームへの入力

(3) 実施期間

令和 6 年 9 月 13 日発送～10 月 11 日

(4) 回収状況

回収数：145 件

回収率：27.2%

2. アンケート結果の概要

(1) 設問毎の回答及びポイント

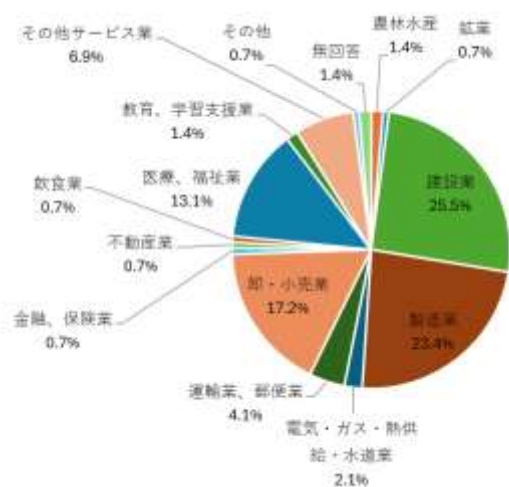
設問	回答数 (件)	回答率 (%)	ポイント
【Q1】業種	143	98.6	－
【Q2】従業員数	143	98.6	－
【Q3】自社にとっての地球温暖化によるリスク	141	97.2	エネルギー代金の上昇や大幅な変動、災害による業務停止・継続困難といった状況が特にリスクとして懸念されている。 影響が少ないと考える事業者は少なく危機感を抱いている状況。
【Q4】脱炭素化への取組みに対する考え	143	98.6	脱炭素化の取組みは必要という認識は浸透している。従業員数の多い事業所では取組みを進めているが、小規模な事業所では具体的な取組みに移行するのが難しい状況。
【Q5】現在のエネルギー消費量	139	95.9	電力及びガソリンは多くの事業所で使用されており、次いで軽油、灯油、LP ガスの順となっている。
【Q6】再エネ設備の導入状況及び今後の導入に対する考え	145 ※	100.0	太陽光の導入が進んでおり特に従業員数の多い事業所では導入が進むとともに今後の導入意向についても高い状況。ただし全体的に無回答の割合が大きいため導入の機運を高める取組みの必要性が伺える。

【Q7】再エネの利用検討にあたって役立つと思う支援、サービス、制度	126	86.9	事業所の規模によってニーズが異なっている。規模の小さい事業所へは事例紹介や見学も含めた情報提供、規模の大きい事業所へは実際の導入にあたっての相談や連携ができる場づくりが求められている。
-----------------------------------	-----	------	--

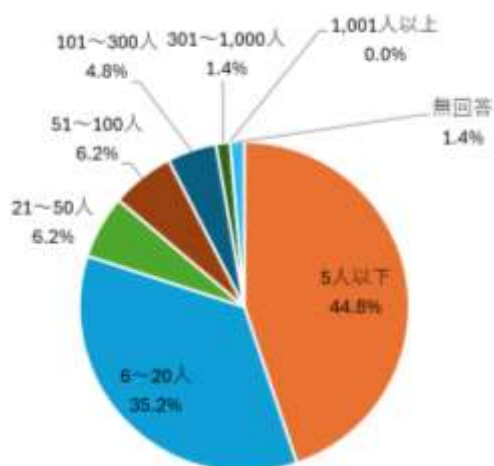
※無回答分を加えて比率を算出した

3. アンケートの結果

【Q1】 貴事業所の業種を教えてください。（あてはまるもの1つに○をつけてください。）（n=145）



【Q2】 貴事業所の従業員数を教えてください。（あてはまるもの1つに○をつけてください。）（n=145）



【Q3】異常高温（気温）、海水温の上昇、豪雨災害など地球温暖化による気候変動が原因と考えられる想定外の災害が増えています。貴事業所にとって、地球温暖化やそれに対策を講じていないことによるリスクは何でしょうか。（あてはまるもの全てに○をつけてください。）（n=141）

「7. エネルギー代金の上昇や大幅な変動」（90 件）が最も多く、次いで「4. 自然災害により業務が停止する、継続できなくなる」（87 件）、「5. 自然災害によりエネルギー供給が停止する」（61 件）、「2. 原材料の調達が困難になる」（59 件）の順となっています。

業種別に見ても全体と同様の傾向が見られますが、その他にも多様で広い項目に及ぶリスクが懸念されています。また、「10. 影響は少ないと考えている」という回答はわずかであり、事業運営にあたっての危機感が反映される結果となりました。

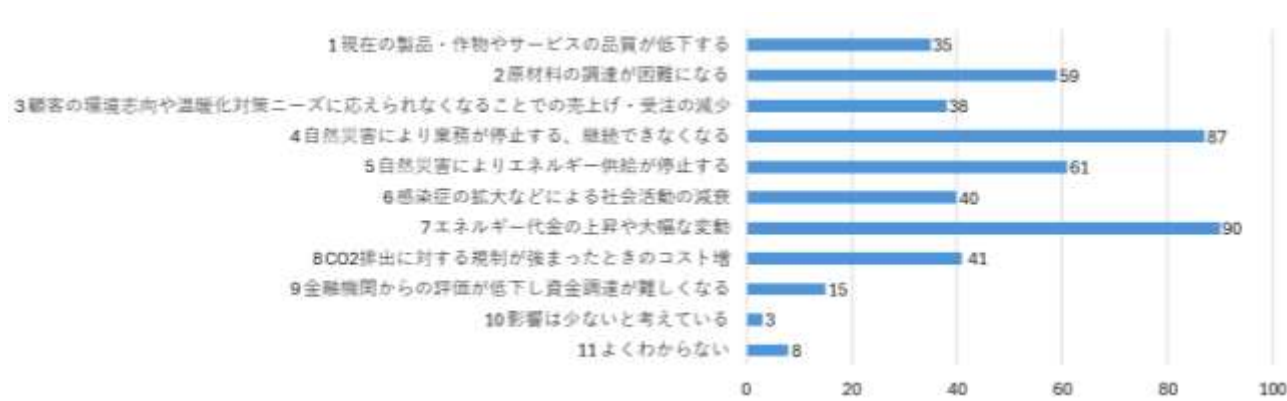


図 1 自社にとっての地球温暖化のリスク

表 1 自社にとっての地球温暖化のリスク（業種別）

	農林水産	鉱業	建設業	製造業	電気・ガス・熱供給・水道業	運輸業、郵便業	卸・小売業	金融、保険業	不動産業	飲食業	医療、福祉業	教育、学習支援業	その他サービス業	その他
1 現在の製品・作物やサービスの品質が低下する	1	0	4	12	1	0	12	0	0	1	1	0	2	1
2 原材料の調達が困難になる	2	0	16	19	0	0	11	0	0	0	6	0	4	1
3 顧客の環境志向や温暖化対策ニーズに応えられなくなることでの売上げ・受注の減少	2	0	7	11	2	1	8	0	1	0	1	1	3	1
4 自然災害により業務が停止する、継続できなくなる	1	1	17	27	1	5	17	1	0	0	10	2	4	1
5 自然災害によりエネルギー供給が停止する	0	0	8	22	2	2	10	1	0	0	9	0	6	1
6 感染症の拡大などによる社会活動の減衰	0	0	8	7	0	2	5	1	0	1	10	2	4	0
7 エネルギー代金の上昇や大幅な変動	0	0	20	24	1	5	16	1	0	1	11	1	9	1
8 CO2排出に対する規制が強まったときのコスト増	0	0	9	14	1	4	6	1	0	0	2	0	3	1
9 金融機関からの評価が低下し資金調達が難しくなる	0	0	2	5	1	1	2	0	0	1	1	1	1	0
10 影響は少ないと考えている	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
11 よくわからない	0	0	4	1	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0

【Q4】今後事業をするうえで、脱炭素化（温暖化の原因となる二酸化炭素等の排出削減）についてどのように思いますか。（あてはまるもの 1 つに○をつけてください。）（n=145）

脱炭素化の取組みは必要だと考える事業所が約 87%を占めています。

従業員数別に見ると、従業員数の多い事業所では既に脱炭素化への取組みを進めています。小規模な事業所になるほど脱炭素化は必要とは考えているが方法がわからない、当面对策を行うつもりはない、との回答が増える傾向となっています。



図 2 脱炭素化への取組みに対する考え

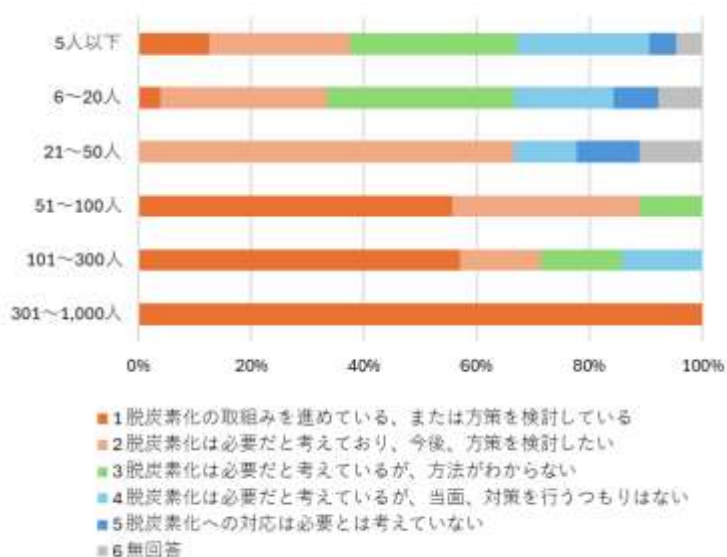


図 3 脱炭素化への取組みに対する考え（従業員数別）

【Q5】現在ご利用のエネルギーは何ですか。該当するものに○をつけてください。(n=139)

エネルギー種別毎に利用している事業所数は下図のとおりとなっています。電力及びガソリンは多くの事業所で使用されており、次いで軽油、灯油、LP ガスの順で多く使用されています。



図 4 エネルギー種別毎の使用事業所数

【Q6】再生可能エネルギー(再エネ)を利用することは脱炭素化に大きく役立ちます。あなたの事業所は、再エネを使っていますか。また、将来使ってみたいものはありますか。あてはまるものに○をつけてください(複数選択可)(n=145)

市内事業所の 19.3%で既に太陽光発電が導入されています。その他 EV・PHV の活用や再エネ電力の購入、薪の利用等の取組みを行っている事業所があります。しかしながら、全体的に無回答の割合が多いため全体的な意識の醸成を図り導入の機運を高める取組みの必要性も伺えます。

従業員数別に見ると、従業員数の多い事業所では取り組みが進んでおり 101～300 人規模の事業所ではその 71%で太陽光発電が導入されており、今後近い将来における導入意向についても従業員数の多い事業所ほど関心度が高くなっています。

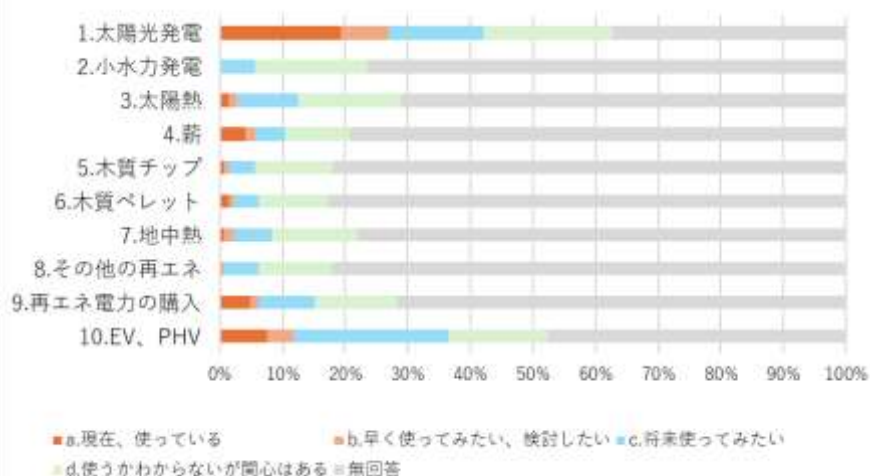


図 5 再エネ設備の導入状況及び今後の導入に対する考え

表 2 再エネ設備の導入状況及び今後の導入に対する考え（従業員数別）

現在使っていると回答した割合

	太陽光	小水力	太陽熱	薪	チップ	ペレット	地中熱	その他の 再エネ	再エネ電 力購入	EV、PHV
5人以下	9%	0%	2%	8%	0%	2%	2%	0%	0%	9%
6～20人	20%	0%	0%	2%	2%	2%	0%	0%	4%	8%
21～50人	38%	0%	13%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
51～100人	33%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	33%	11%
101～300人	71%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	29%	0%
301～1,000人	50%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	50%

早く使ってみたい、検討したいと回答した割合

	太陽光	小水力	太陽熱	薪	チップ	ペレット	地中熱	その他の 再エネ	再エネ電 力購入	EV、PHV
5人以下	3%	0%	2%	3%	2%	2%	2%	0%	0%	5%
6～20人	6%	0%	2%	0%	0%	0%	2%	2%	2%	6%
21～50人	13%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
51～100人	22%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
101～300人	29%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	14%	0%
301～1,000人	50%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%

将来使ってみたいと回答した割合

	太陽光	小水力	太陽熱	薪	チップ	ペレット	地中熱	その他の 再エネ	再エネ電 力購入	EV、PHV
5人以下	19%	6%	16%	8%	6%	6%	8%	8%	9%	30%
6～20人	14%	4%	4%	4%	4%	4%	4%	6%	10%	20%
21～50人	25%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	13%
51～100人	11%	11%	22%	0%	0%	0%	22%	0%	11%	22%
101～300人	0%	14%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	14%	29%
301～1,000人	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	50%

使うかわからないが関心はあると回答した割合

	太陽光	小水力	太陽熱	薪	チップ	ペレット	地中熱	その他の 再エネ	再エネ電 力購入	EV、PHV
5人以下	25%	16%	16%	6%	8%	6%	13%	8%	13%	13%
6～20人	20%	14%	14%	10%	14%	14%	14%	14%	14%	20%
21～50人	25%	25%	25%	13%	13%	0%	0%	0%	13%	25%
51～100人	22%	44%	44%	22%	22%	22%	22%	22%	11%	11%
101～300人	0%	29%	29%	29%	29%	29%	29%	29%	14%	14%
301～1,000人	0%	50%	50%	50%	50%	50%	50%	50%	50%	0%

【Q7】再エネの利用を検討するとしたらどんな支援、サービス、制度があると役立ちますか。(n=126)

最も多い回答は「7. 国・県・市による助成制度」となっており、実際の導入を検討するにあたっては費用負担の軽減が特に重要となることが伺えます。

従業員数別においても全体と同様の結果となりました。また、従業員規模の小さい事業所では情報提供や見学会など情報を収集できる機会を、規模の大きい事業所では相談できる場や専門家によるアドバイスなど具体的な導入を見据えた取組みへのサポートが必要とされています。

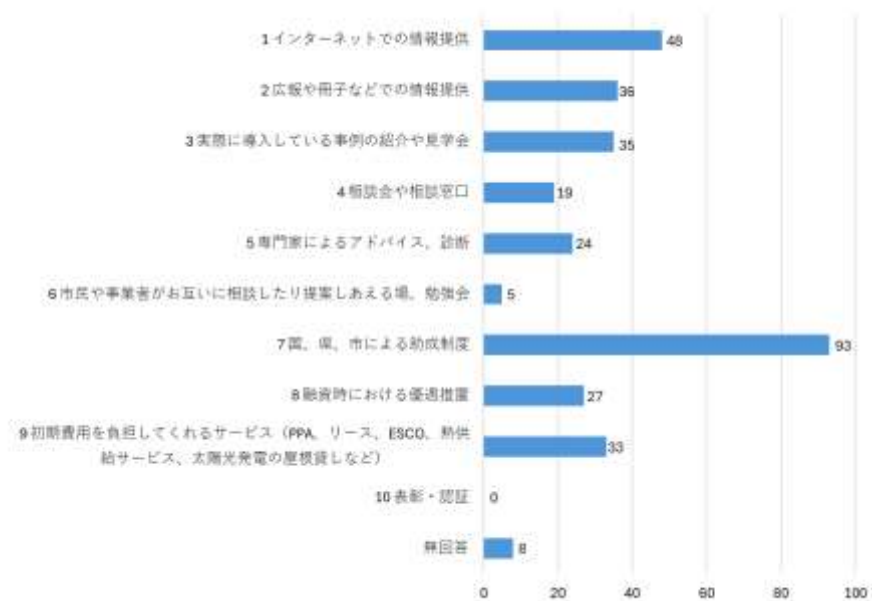


図 6 再エネの利用にあたって役立つと思う支援、サービス、制度

表 3 再エネの利用にあたって役立つと思う支援、サービス、制度（従業員数別）

	5人以下	6～20人	21～50人	51～100人	101～300人	301～1,000人
1 インターネットでの情報提供	14.7	15.3	9.1	15.0	21.7	0.0
2 広報や冊子などでの情報提供	11.9	10.8	9.1	15.0	8.7	0.0
3 実際に導入している事例の紹介や見学会	13.3	9.0	4.5	10.0	13.0	0.0
4 相談会や相談窓口	5.6	5.4	4.5	10.0	8.7	33.3
5 専門家によるアドバイス、診断	5.6	7.2	13.6	5.0	13.0	33.3
6 市民や事業者がお互いに相談したり提案しあえる場、勉強会	2.1	0.9	0.0	0.0	4.3	0.0
7 国、県、市による助成制度	28.0	30.6	31.8	35.0	21.7	33.3
8 融資時における優遇措置	8.4	10.8	9.1	5.0	0.0	0.0
9 初期費用を負担してくれるサービス (PPA、リース、ESCO、熱供給サービス、太陽光発電の屋根貸しなど)	10.5	9.9	18.2	5.0	8.7	0.0
10 表彰・認証	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

若者アンケート実施結果について

1. アンケート調査概要

(1) 調査対象

赤磐市立小学校（11校）の6年生及び中学校（5校）の2年生

(2) 調査方法

各学校を通じて依頼しウェブ回答フォームにより回答

(3) 実施期間

令和6年9月～10月

(4) 回収状況

回収数：541件

回収率：65.1%（541件/831件）

2. アンケート結果の概要

(1) 設問毎の回答及びポイント

設問	回答数 (件)	回答率 (%)	ポイント
【Q1】学校名	530	98.0	－
【Q2】学年	531	98.2	－
【Q3】地球温暖化のリスクを知っているか	531	98.2	「知っている」が多いが約4分の1（23.8%）は「知らない」との回答であり、将来を担う世代の地球温暖化や脱炭素に対する理解を深める必要がある。
【Q4】再エネの認知度	541 ※	100.0	太陽光発電、風力発電、ハイブリッド自動車及び電気自動車の認知度は高く浸透している。それ以外の再エネは50%前後と低い。
【Q5】自宅で使っている、または、今後使ってみたい再エネ等設備	541 ※	100.0	既に自宅で太陽光発電を導入しているという回答が30%を超えており、普及が進んでいる。その他の再エネはまだ浸透していないが、将来的な再エネの利用については様々な種類の再エネに対して関心を高く持っている。
【Q6】再エネを使うことが赤磐市にとってどんな効果につながると良いと思うか	524	96.9	災害対応（エネルギー確保、防災、減災）や良好な住環境の視点をより重要視している。
【Q7】赤磐市がどんなまちだったら、将来も市内に住み続けたいか	532	98.3	Q6と同様に災害の少なさや災害時に困らず生活ができること、次いで生活環境の良さが重視されている。

【Q8】市内で再エネを導入してほしい場所	528	97.6	学校・保育園・幼稚園への導入意向が高い。次いで個人の家。児童・生徒たちにとって、自分たちの目に見える場所への導入が望まれている。
【Q9】再エネの利用を広めていくとしたら、だれがどんなことをしていくと良いか	191	35.3	(分析中)
【Q10】日ごろの生活の中での困りごと、自分や市の将来について心配なこと、気になっていること、解決してほしいこと	213	39.4	(分析中)

※回答の無いものを無回答として比率を算出

3. アンケートの結果

【Q1】通っている学校名を選んでください。(n=541)

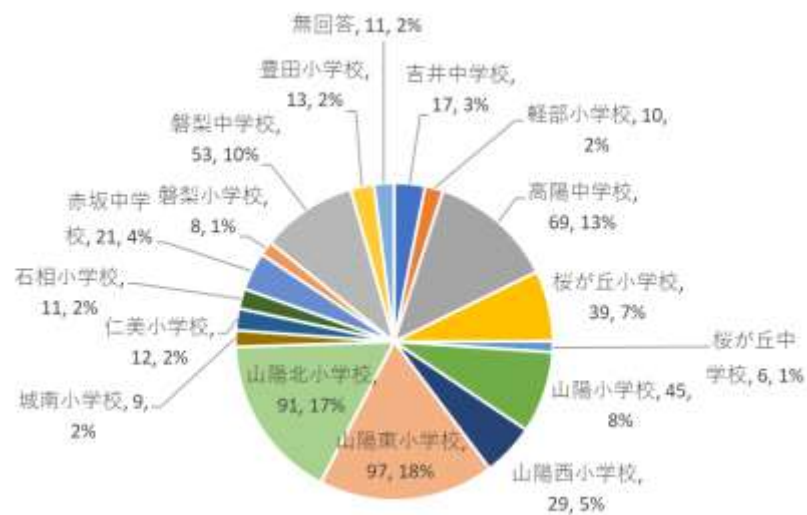


図 1 回答者の属性（学校名）

【Q2】学年を選んでください。(n=541)



図 2 回答者の属性（学年）

【Q3】異常高温（気温）、海水温の上昇、高潮、豪雨災害など地球温暖化が原因と考えられる想定外の災害が増えています。あなたはこうした地球温暖化のリスクを知っていますか。あてはまるほうへ○をつけてください。（n=541）

74.3%の回答者が「知っている」と回答しましたが、「知らない」との回答者は23.8%となっており、地球温暖化が及ぼす影響について理解を深めていく必要があることが伺えます。

小学生・中学生のそれぞれの回答状況を見ると、概ね全体結果と類似の傾向が見られました。中学生のほうが小学生より「知っている」との回答が多くありましたがその差は5.6%ポイントと大きな差は見られませんでした。

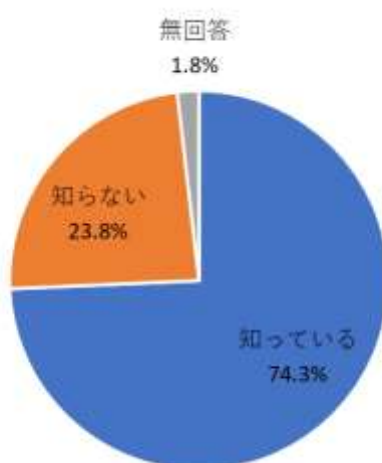


図 3 地球温暖化のリスクを知っているか

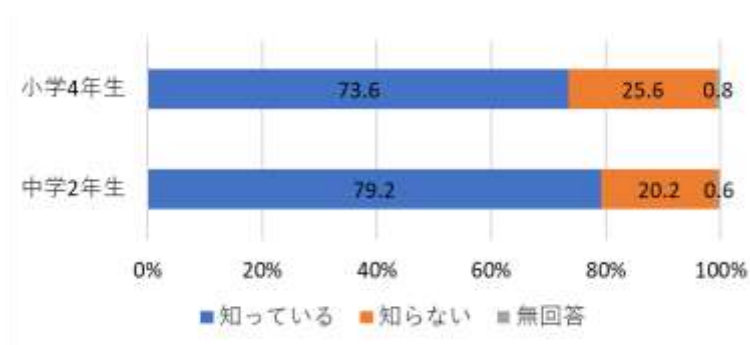


図 4 地球温暖化のリスクを知っているか（学年別）

【Q4】あなたは、下記の再生可能エネルギーについて、見たこと、聞いたことがあるものはありますか。それぞれあてはまるものに○をつけてください。(n=531)

太陽光発電、風力発電、ハイブリッド自動車及び電気自動車は、見たこと、聞いたことがあるとの回答が80%を超えており、若い世代にも認知度は高く浸透している状況が伺えます。いっぽう、それ以外の再エネについては50%前後にとどまっている状況となっています。

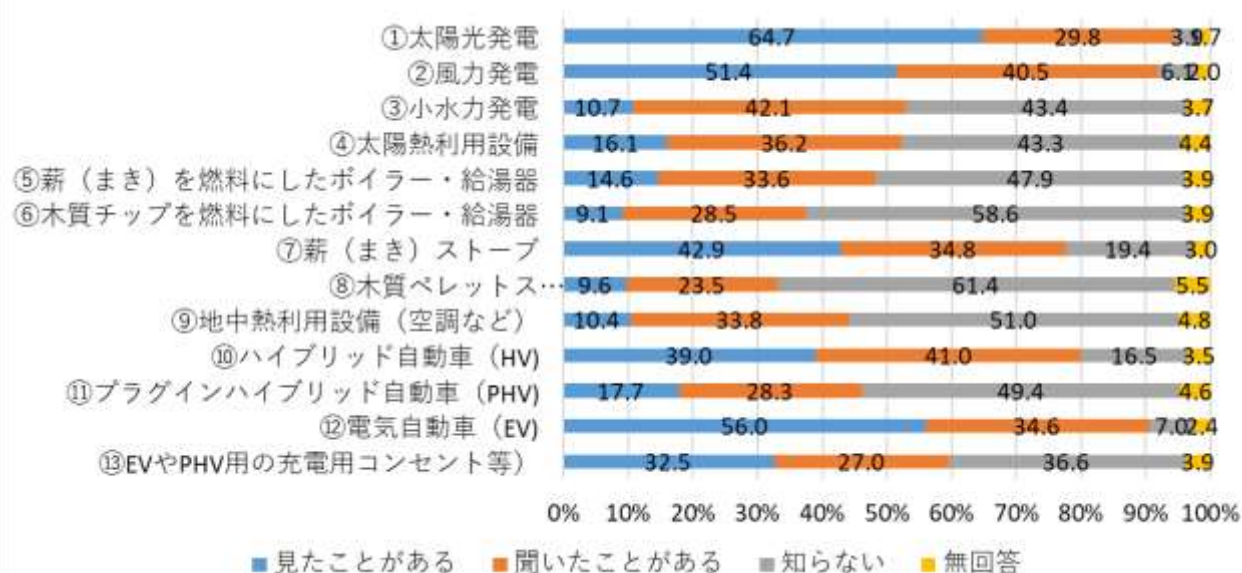


図 5 再エネの認知度

【Q5】あなたは、下記の再生可能エネルギーについて、自宅で使っているものはありますか。また、今は使っていないが今後使ってみたいものはありますか。それぞれあてはまるものに○をつけてください。(n=541)

太陽光発電については34.2%が使用しているとの回答で既に自宅で実際に見たり触れたりできる環境にある児童・生徒が増えていることが伺えます。次いでハイブリッド自動車及びEV等の充電設備の利用がやや多いですが、太陽光発電以外はまだ浸透していません。今後使ってみたいとの関心はいずれの再エネに対しても高くなっています。

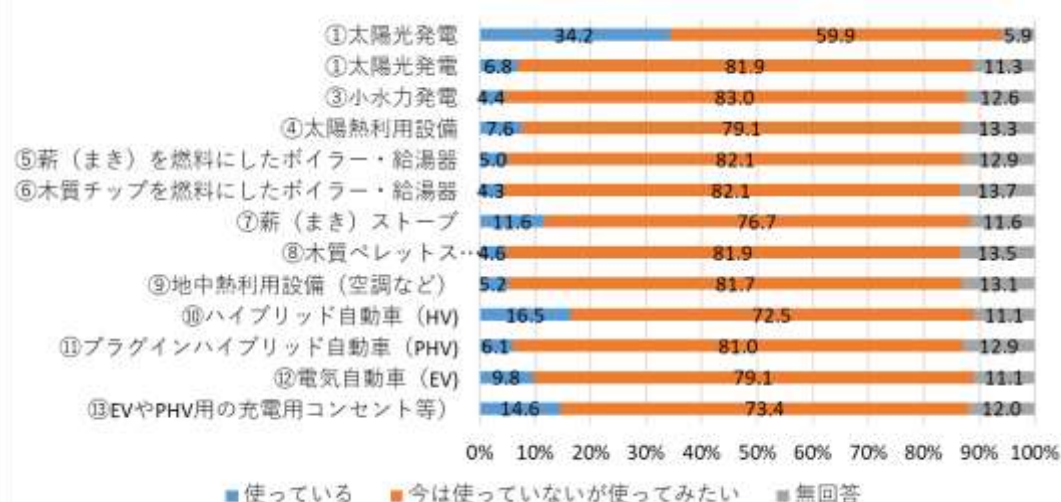


図 6 自宅で使っている、または、今後使ってみたい再エネ等設備

【Q6】赤磐市にとって、再生可能エネルギーを使うことが、地球温暖化防止だけでなく、どんな効果につながると良いと思いますか。特に重要だと思うもの3つに○をつけてください。(n=524)

「2.災害などの非常時にも使えるエネルギーがある」が最も多く、次いで「5.家や建物の中が暖かく涼しい快適な暮らしができる」、「8.捨てていたり使われてないままの資源も、無駄なく有効に使い切り資源が循環する」「2.災害などの非常時にも使えるエネルギーがある」の順となっており、特に災害時に対する意識が高いことが伺えます。

学年別に見ても小学生及び中学生ともに、災害を予防したり災害時への対応に役立てていくことが期待されています。



図 7 再エネを使うことが赤磐市にとってどんな効果につながると良いと思うか

表 1 再エネを使うことが赤磐市にとってどんな効果につながると良いと思うか（学年別）

	小学6年生	中学2年生
1. 災害を予防したり減らしたりする	13.1%	14.2%
2. 災害などの非常時にも使えるエネルギーがある	17.9%	18.7%
3. 市内に新しい産業が生まれたり産業の活性化につながったりする	5.2%	9.3%
4. 市内での生活がもっと便利になる（買い物や交通など）	12.5%	9.7%
5. 家や建物の中が暖かく涼しい快適な暮らしができる	14.6%	13.6%
6. こども・若者が育つ環境の向上やより良い教育につながる	11.1%	12.8%
7. 農地や森林の保全と活用が進む	11.4%	10.8%
8. 捨てていたり使わないままの資源も、むだなく有効に使い切り資源が循環する	14.1%	11.0%

【Q7】赤磐市がどんな市だったら、将来も市に住み続けたいと思いますか。あなたにとって、特に重要だと思うもの3つに○をつけてください。(n=532)

Q6と同様に、「1.災害が少ない、災害があっても困らない」が最も多い結果となりました。次いで、生活の利便性や自然環境・生活環境の良さ、快適さといった点が特に重視されています。

また、学年別に見ても、いずれも全体と同様の傾向を示しています。

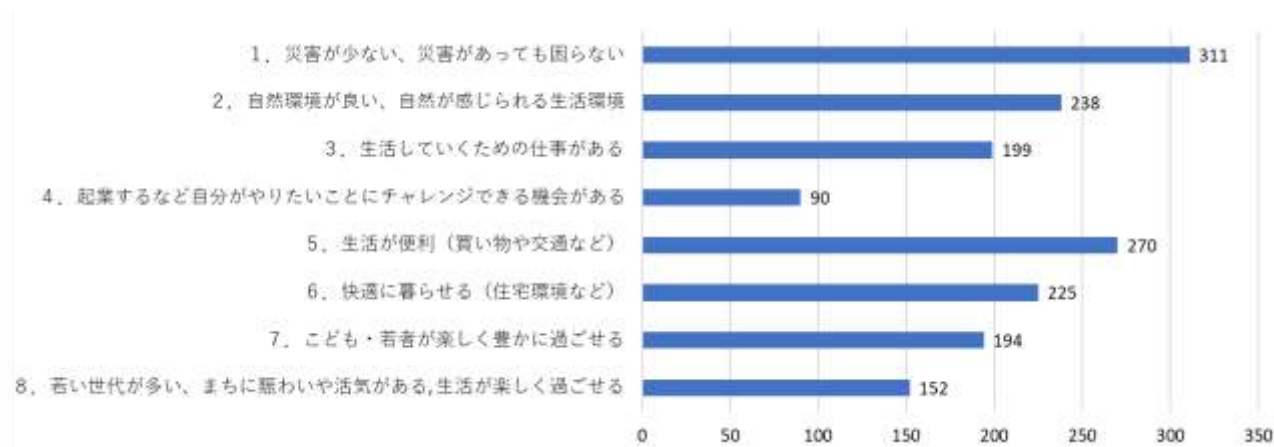


図 8 赤磐市がどんなまちだったら、将来も市内に住み続けたいか

表 2 赤磐市がどんなまちだったら、将来も市内に住み続けたいか（学年別）

	小学6年生	中学2年生
1. 災害が少ない、災害があっても困らない	19.7%	16.1%
2. 自然環境が良い、自然が感じられる生活環境	15.1%	12.0%
3. 生活していくための仕事がある	11.0%	13.8%
4. 起業するなど自分がやりたいことにチャレンジできる機会がある	5.0%	6.6%
5. 生活が便利（買い物や交通など）	15.6%	16.9%
6. 快適に暮らせる（住宅環境など）	12.7%	14.8%
7. こども・若者が楽しく豊かに過ごせる	11.9%	10.5%
8. 若い世代が多い、まちに賑わいや活気がある、生活が楽しく過ごせる	9.0%	9.3%

【Q8】市のどんなところに再生可能エネルギーを導入してほしいですか。導入してほしいと思うものに○をつけてください(いくつでも可)。また、その理由があれば()に記入してください。(n=528)

「3.学校・保育園・幼稚園」が最も多く、次いで「1.個人の家」が多い結果となりました。学年別に見ても同様の傾向となっていますが、小学6年生においては特に「3.学校・保育園・幼稚園」への希望が多く、目に見える場所への導入を望んでいる様子が伺えます。

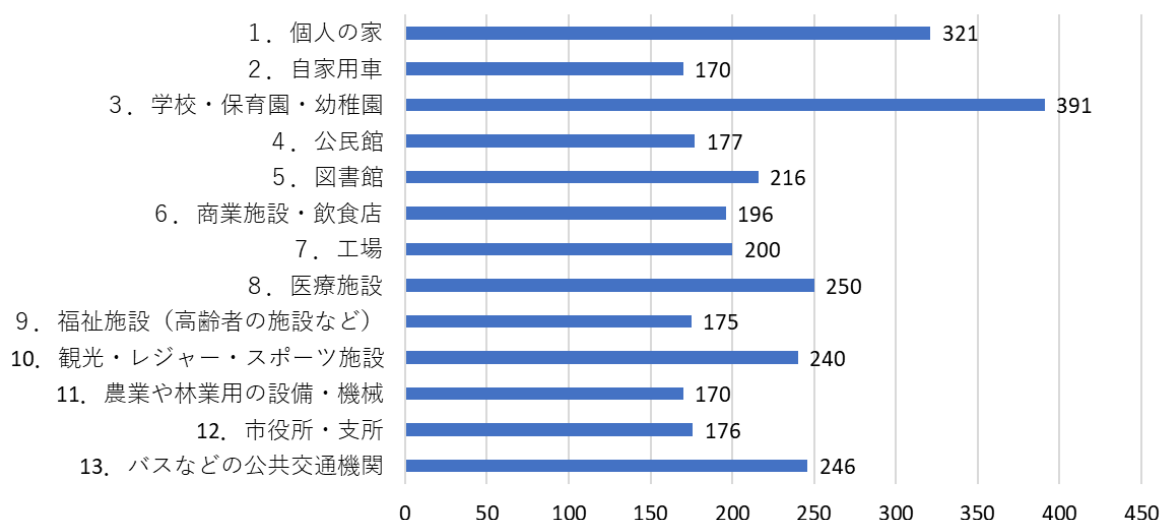


図 9 市内で再エネを導入してほしい場所

表 3 市内で再エネを導入してほしい場所（学年別）

	小学6年生	中学2年生
1. 個人の家	61.4%	56.5%
2. 自家用車	33.6%	26.8%
3. 学校・保育園・幼稚園	76.3%	64.3%
4. 公民館	36.4%	26.2%
5. 図書館	43.8%	32.1%
6. 商業施設・飲食店	39.4%	31.0%
7. 工場	42.4%	25.0%
8. 医療施設	49.3%	41.7%
9. 福祉施設（高齢者の施設など）	36.4%	25.6%
10. 観光・レジャー・スポーツ施設	48.2%	39.3%
11. 農業や林業用の設備・機械	35.5%	24.4%
12. 市役所・支所	37.7%	23.2%
13. バスなどの公共交通機関	52.1%	32.1%

※下記設問については分析中です。

【Q9】市内に再生可能エネルギーの利用を広めていくとしたら、だれがどんなことをしていくと良いと思いますか。アイデアがあれば自由に書いてください。(n=191)

【Q10】皆さんの日ごろの生活の中での困りごと、自分や市の将来について心配なこと、気になっていること、解決してほしいことがあれば、自由に書いてください。(地球温暖化や再生可能エネルギーに関係ないことでもかまいません。)(n=213)